

野外運動研究室ニュースレター

編集：筑波大学野外運動研究室広報係
発行：筑波大学野外運動研究室
〒305-8574 つくば市天王台 1-1-1
TEL/FAX 029-853-6339
URL <http://yagai.tsukubauniv.jp>

写真：「虹雲 ～尾瀬燧ヶ岳山頂より～」吉沢撮影

【巻頭言】

野外運動の力

吉沢直(MC1)



大学院に入学し、早3ヶ月が経ちました。授業・実践・研究を同時に進めていくことが求められながらも、先生方や研究室の仲間と囲まれ、充実した時間を過ごしています。

私は、野外運動と関わりの強い地域である長野県白馬村で育ちました。まだ幼く、記憶も曖昧ですが、長野オリンピックの際も、スキー場でアルペンスキーの滑降競技を観戦したそうです。いかんせん、選手が速すぎて、何も見えなかったそうですが…。

近年、白馬村はインバウンド観光により、新たな盛り上がりを見せています。帰省した際に利用する公共交通機関の中は、本当に外国人ばかりで、まるで知らない異国に来たような気持ちになります。

どうやら私の印象に残っている白馬村は、少し昔の白馬村になっているようです。私が白馬で過ごしたのは、ちょうど第二次スキーブームの終了後、地域経済が非常に不安定な時期にあたります。スキー客の減少に伴うスキー場の閉鎖、ペンション・ホテルの廃業などを目の当たりにし、不景気を子供ながらに感じながら育ちました。

さて、現在私は体育・スポーツについて日々学んでいます。スキーほどに地域社会と密接に関わっているスポーツは、他にないような気がします。歴史の変遷を辿っても、日本各地に登山やスキーを行うことができるがゆえに訪問者が増え、その需要に応えるために地域形態が変容し、観光地化した地域が多く存在します。そして月日とともに、そのような地域に住む人々は、結果的にスキー観光産業に依存することになり、その産業の良し悪しが、人々の生活すらも揺さぶるものになっているのです。今後、人口の減少や、労働世代の勤務時間の増加が懸念されており、まだまだこのような地域に追い打ちをかける可能性があります。

ここ数年、体育・スポーツ界の様々な課題が露見し、変化が求められています。一方で、東京オリンピックが近づき、「スポーツの力」への期待は、まず

まず高まっています。我々が専門にする野外運動は、地域社会や人々の暮らしすらも変える力を持ち合わせています。それらの力をどのように使うのか、導いていくのかを考えていくのも、我々の使命のように感じます。

【正課事業報告】

○実技理論実習Ⅰ 野外運動デイキャンプ(3年女子) 加藤智行(UG3)

[期日]2016年6月1日～2日

[場所]筑波大学野外運動実習場「野性の森」

[指導者]渡邊、佐藤、新井、飯野、吉沢、前川、加藤、有馬、小川、川辺

[参加者]体育専門学群3年女子 約60名

今年も上記の日程でデイキャンプが行われました。まさにこの2日間はデイキャンプ日和で、これまでの実技理論実習Ⅰ「野外運動」で学んだロープワークや火おこし、テント設営など、野外活動に必要な技術を用いて仲間とともに過ごす充実した素敵なキャンプとなりました。

夕食コンテストは女子ならではのオリジナリティー溢れる料理が作られ、盛り付けも味も大満足の夕食となりました。ナイトプログラムもキャンプファイヤーも大いに盛り上がり、普段一緒に活動することのない新しい仲間とも一層の団結力や絆を深められたように感じます。

野外研究室に入ったばかりの3年生が、スタッフとして関わることができ、受講学生にとっても、新入りスタッフにとっても、とてもいい経験となりました。



デイキャンプ キャンプファイヤーの様子

○実技理論実習Ⅰ 野外運動デイキャンプ(1年男子)

前川真生子(UG4)

[期日]2016年5月25日～26日

[場所]野性の森

[指導者]渡邊、新井、佐藤、飯野、前川、加藤、有馬、小川

[参加者]体育専門学群1年男子 約50名

上記の日程で、体育専門学群1年男子のデイキャンプが行われました。デイキャンプ当日はまさにキャンプ日和の快晴でした。1年生ということもあり、みなフレッシュな表情で野性の森へと集合してきました。テント設営や夕食作りには少し時間がかかっていましたが、しっかりと班のメンバーと協力しあい行っていました。私自身は、初めて指導者という立場で後輩たちの様子を見ることができました。少しではありましたが、デイキャンプが行われている中での後輩たちの成長が見られてとても良かったです。特にキャンプファイヤーは、体育専門学群特有の盛り上がりでした。参加した学生は、あまり経験することのない貴重な時間を過ごせたのではないかと思います。また、指導者も参加者と共に成長することができたと思います。

○体育専門学群新入生オリエンテーション

佐藤冬果(MC2)

[期日]2016年4月11日(アイスブレイキングゲーム)

/2016年4月12日(学内オリエンタリング)

[場所]中央体育館バスケットボール場/筑波大学内

[指導者]井村、渡邊、佐藤、新井、飯野、吉沢、佐藤、前川、東野、木持

[参加者]体育専門学群新入生 12クラス 256名

入学したばかりの新入生を対象に、クラスや同期とのアイスブレイキングのための「コミュニケーションゲーム」を大学院生で指導しました。翌日は、学内に22ヶ所のチェックポイントを設けてオリエンタリングを行い、野外運動研究室では、各ポイントで課題解決ゲームを指導しました。

新入生たちは初日こそ緊張感が漂っていたものの、ゲームを通して本性(!?)を表に出し、翌日にはグループで学内を歩き回り、筑波大学の広さと、施設の充実っぷりを実感しながら、クラスメイトとの仲も深まった1日になった様子でした。



250名を前に指導する新井・佐藤

○第20回日本キャンプミーティング

新井洸真(MC2)

[期日]2016年6月4日

[場所]国立オリンピック記念青少年総合センター

[主催]公益社団法人 日本キャンプ協会

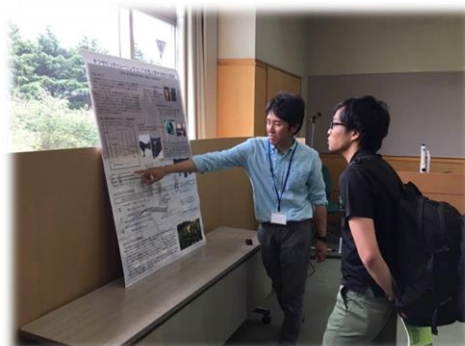
[参加者]渡邊、佐藤、吉沢、飯野、大関

今年から、これまで口頭発表で実施されてきた研究発表と実践発表がポスター発表に変更されました。発表者と参加者が顔と顔を合わせて気軽に質疑応答している様子が沢山見られ、「つながりを広げよう」というテーマ通りのキャンプミーティングになったのではないかと思います。

全体会では、講演会「つながりを生み出すインプロ(即興演劇)」が開催されました。講演というよりも、参加型ワークショップ中心の実演的な会となり、身体と頭を動かしてインプロの場で起こることを体感しました。キャンプの実践の場でもいかなるようなアプローチで、とても興味深い内容でした。

☆発表題目

- ・森のようちえん活動が幼児の体力に及ぼす影響
大関久仁(土浦市消防本部：H27年度卒業)
- ・オフザピッチトレーニングとしての雪上野外プログラムの実践
吉沢直(MC1)



ポスター発表をする吉沢

【課外事業報告】

○JFA アカデミー福島グループワークトレーニング

飯野亜耶奈(MC1)

[期日]2016年4月29日

[場所]筑波大学野外運動実習場「野性の森」

[指導者]坂本、坂谷、佐藤、大友、新井、飯野、吉沢

[参加者]女子選手36名(中1～高3)、コーチ7名

JFA アカデミー福島の女子選手の皆さんのASE研修を行いました。男子は長年行っていましたが、女子選手の方は今回が初めてで、もちろん野性の森も初めてでした。ASEに加えて、昼食作りは各グループ対抗のカレーコンテストを行いました。食材争奪戦から始まり、昼食作りもなかなかの盛り上がりでした。ASEでは、アスリートといえども、やはり女の子で、泥に汚れたりするのをためらう場面も見られました。しかし、本当に元気でよく笑う子が多く、楽しそうに取り組む姿を見て、こちらも元気をもらっ

た1日になりました。男子と同様、女子の皆さんにとってもこのASE研修が伝統となっていっただいいなあとと思います。

○日本サッカー協会公認S級コーチ養成講習会

佐藤冬果(MC2)

[期日]2016年5月15日

[場所]茨城県立白浜少年自然の家「冒険の森」

[指導者]渡邊、坂谷、佐藤

[参加者]S級コーチ受講生 21名

さすがサッカーの最前線で活躍されている皆さん。どの課題にもアツク取り組む姿が印象的で、「ひとつになったグループが発揮する力の大きさ」を見せて頂きました。ふりかえりの中でも、仲間の理解だけでなく「自分の理解」が進んだというコメントが聞かれました。

「この課題はどのくらいの年齢から使えるのか？」
「自分のチームで試すときに使える資料はあるか？」
などの質問もあり、指導者の目線でASEを見て、活用しようと感じてくださったことに嬉しく思いました。皆さんのご活躍をお祈りしております！



まじんの挨拶

～その他の課外事業報告～

○JFA アカデミー福島グループワークトレーニング

[期日]2016年4月16日

[場所]筑波大学野外運動実習場「野性の森」

[指導者]坂本、佐藤、吉沢、飯野、大友

[参加者]11期生男子16名(中1) コーチ2名

○クーパーアカデミーグループワーク研修

[期日]2016年4月24日

[場所]筑波大学野外運動実習場「野性の森」

[指導者]坂本、佐藤、新井、飯野、吉沢

[参加者]クーパー学生9名 スタッフ2名

【個人実践報告】

○浅間大学院生セミナー

佐藤冬果(MC2)

[期日]2016年5月20日～22日

[場所]長野県小諸市 安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター

全国の様々な大学で、「環境」をキーワードに学ぶ院生が集まり、研究発表などをしてつづ懇親を深めてきました。初日にはチーム対抗で地元の名所を巡るロゲイニングを行い、2日目に各大学の先生方の講義と院生の研究発表を行いました。他大学で他分野を専門にする先生から直接お話しを聞くことが出来、また、研究発表を通して自分の修論を見つめ直すことができました。3回目の参加でしたが、今回も新しい出会いに新しい刺激をもらい、久々の再会に身が引き締まる想いでした。



野外教育チーム

○大学生登山リーダー研修会

吉沢直(MC1)

[期日]2016年5月22日～27日

[場所]富山県立山国立登山研修所、剣岳周辺

各大学の山岳部やワンダーフォーゲル部のリーダー達が集まる登山研修会に行ってきました。

研修中は山岳ガイドの方々に指導して頂きました。講習の中で、多くの学びがあったのですが、その中で一番印象に残っているのは、ガイドの方々の底知れぬ体力です。私自身スキーで登る力には、それなりに自信があったのですが、50代をこえて、私たち学生を簡単に置き去りにする強さには、ほんとうに驚きました。「これが、山のプロか…」と感じました。

また、今回の研修の中で、登山の視野が広がり、野外運動研究室の登山について自分自身の中での理解が深まったように感じます。「大学山岳部にとっての登山」、「山岳ガイド・プロスキーヤーの登山」、「レジャーとしての登山」、「教育目的を持った登山」…。単純



に、山に登るという行為ですが、その行為の捉え方は様々です。普段とは違うやり方に出会った時や、他の集団と比較した時に、初めて自分たちの特徴に気付くこともあることに気づかされました。

～その他の個人実践～

○至仏山バックカントリー

[期日]2016年4月3日～5日

[場所]至仏山周辺

[参加者]飯野、吉沢、大友

○燧ヶ岳バックカントリー

[期日]2016年4月23日

[場所]燧ヶ岳周辺

[参加者]新井、吉沢

○日光白根山登山

[期日]2016年5月6日

[場所]日光周辺

[参加者]佐藤、大友



【野外研 NEW FACE 紹介】

今年も野外研に新専攻生が入りました。新 MC2 名、新 UG10 名が新たに加わり、また平成 19 年度修了の吉松梓氏（旧姓:小田）が DC として、所属することになりました。学生数が全体で 20 名です。

新しい仲間たちを紹介します！

～新大学院生～

飯野亜耶奈

[部活]元バレーボール部

[出身校]筑波大学(体専)

横浜女学院高校

[趣味]サイクリング

[キャンプネーム]ペコ

[一言]はじめまして。M

1の飯野亜耶奈です。キ

ャンプネームは今の所

「ペコちゃん」が定着し

てきています。学群時代

は、バレーボール部に所属していました。いわゆるチャンピオンスポーツの代表的な組織に長らく身を置いていた私にとって、野外というのは全く異なる世界、という感じです。大学院の2年間は、自然に触れながら「深める」ということを中心に、自分自



身と向き合う時間にしたいと思っています。宜しくお祈りします！

～新学群生 (UG3) ～

跡部峻平

[部活]蹴球部

[出身校]札幌東高校

[趣味]妄想

[キャンプネーム]べっかむ

[一言]おはようございます。

こんにちは。こんばんは。

体育専門学群3年の跡部で

す。身長は175センチ血液

型はB型のおうし座です。

今年目標、あるいは今学

期目標としては、出席を

するです。笑いを取ろうとかそんなじゃないです。これが最大の目標です。当たり前のことは当たり前前に。人としてまともになれるよう頑張ります。また、野外研究室の一員になったからには、アウトドアに、生き生きとした人間になれるよう一所懸命に勉学に励みたいです。なにとぞ、よろしくお祈りします。



有馬聖人

[部活]蹴球部

[出身校]大州高校

[趣味]読書・人間観察

[キャンプネーム]ノボル

[一言]私は自分の経験値を

上げるために野外運動研究

室の門をたたきました。様々

な経験を積み、スキルを身に

つけ、人間として成長してい

きたいです。また、野外運動研究室はコブラを筆頭にぶっこんでる人や変人が多いです。私は非常に真面目な性格であるため皆についていけるか心配ですが、うまく付き合っていけるよう努力してまいります。何卒よろしくお祈り致します。



小川裕太郎

[部活]硬式野球部

[出身校]豊田西高校

[趣味]星空を眺める

[キャンプネーム]わんわん

[一言]初めまして。小川裕

太郎です。出身は愛知県です。

今まで自然の中での活動と

はあまり縁のない生活を送

ってきたので、経験値は低

いですがその分伸びしろだ

けです。

世の中は便利なもので満



ち溢れていますが、それが全てではないと思います。時には手間をかけてみて、自然にかえてみるのも良いのではないのでしょうか。2年間学びながらもしっかり楽しみます。よろしくお願いします。



加藤 智行

[部活] 蹴球部
[出身校] 日立第一高校
[趣味] 曲探し、
ルービックキューブ
[キャンプネーム] ホーク

[一言] 野外研究室で、今まで経験してこなかった新しい何かを見つけ出したいです！頼れる先生、愉快的先輩、少しお

川辺 光貴

[部活] 蹴球部
[出身校] 獨協高校
[趣味] ポケモン
[キャンプネーム] ベーコン
[一言] 茨城で生まれ、東京で育ち、つくばエクスプレスに乗ってやってきました。体育学を学びながら放課後はボール蹴って、時間があればバイクに乗っています。自然体験活動を通してカッコいい保健体育の教師を目指して頑張ります！



草薙 充

[部活] 硬式野球部
[出身校] 日本大学第三高校
[趣味] 遊び全般
[キャンプネーム] ザズー

[一言] 実践力のある一人前の野外人になります！将来的には日本にとどまらずに世界の山々を相手に山登りをしたいと思っており、この筑波大学野外研でスキルと

ともに心身を磨いていきたいと思っています。よろしくお願いします！

小西 諒

[部活] 準硬式野球部
[出身校] 小山台高校
[趣味] マンガを読むこと
[キャンプネーム] こにす
[一言] 東京都立小山台高校出身小西諒です。170cm70kg



です。小学校2年生からずっと野球を続けています。マンガの他にゲームも好きで割とインドアな人間であります。野外運動に関しては幼少期によくスキーをしに行ったり登山をした程度で全くの素人ですが、これから一生懸命に勉強していきたいと思っています。よろしくお願いします。



高田 啓伍

[部活] 蹴球部
[出身校] 神奈川大学附属高校
[趣味] 漫画を読むこと
[キャンプネーム] ジャパ

[一言] 昔は虫が好きだったのですが、いつからか虫が嫌いになってしまったのでなんとか夏は虫と仲良くやっていけるように頑張りたいと思いま

す。また、研究室の先輩や先生方はみなさん良い人、優しい人たちばかりで楽しんで活動することができます！様々な野外活動を行いたいと思っていますので頑張りたいと思います！！

船倉 康平

[部活] 蹴球部
[出身校] 都立駒場高校
[趣味] 音楽鑑賞
[キャンプネーム] くるり

[一言] 今年度から野外研究室の一員となった船倉康平です。私は野外運動の授業で、野外の楽しさに魅了され、この研究室に入ることを決意しまし



た。将来的に、野外の知識を蓄え、キャンプなどを行えるカッコいい父親を目指し頑張ります。

堀 広輝

[部活] 男子ハンドボール部
[出身校] 岐阜商業高校
[趣味] スポーツ観戦
[キャンプネーム] バレル

[一言] 岐阜県岐阜市出身で小学校1年生の頃からハンドボールをしてきました。大学でもインカレ優勝を目指し日々努力しています。野外運動の

面ではまだまだ未熟ですが、持ち前の何事にも全力で取り組む姿勢で、沢山の経験を積んでいき、野外運動のプロフェッショナルになれるように頑張ります！！またUGの新専攻生が男10人ということで、パワフルさで野外運動研究室を盛り上げていきましょう！！



リレーコラム OB・OGからのメッセージ



平成 14 年度修了

永井将史 (東京女子体育大学講師)
(前 国際自然環境アウトドア専門学校 副校長)

信州大学で平野吉直先生の研究室に所属したことがきっかけで野外の世界に身を投じ、筑波大学野外運動研究室には大学院生として 2 年間お世話になりました。修了後は、新潟県妙高市にある専門学校に 13 年間勤務し、今年度からは東京女子体育大学の野外運動研究室で講師を務めています。

妙高時代はフィールドに恵まれ、公私ともに野外での活動に親しむことができましたが、同時に、学生時代とは違う視点で野外教育や自然について考えることができました。「森林の多面的機能」という概念がありますが、妙高での生活は野外活動や野外教育の「多面的機能」に気づかされた時間だったように思います。

現役生の皆さんの多くも同じかもしれませんが、学生時代や就職当初は大自然の中でのダイナミックな野外活動を志向していました。しかし、体育や教育以外の専門性を持って自然と関わる同僚や、地域の人との出会いを通して、体育会系の野外活動や青少年教育の場としてだけではない、自然資源の活かし方がたくさんあることに気づきました。

最近では地方創生や地域活性等とよく言われますが、結局のところ、それらは自治体の財政や人口の問題にされてしまいがちです。それも大切なことではあるのですが、妙高で生活するうちに、自然資源を福祉や医療や観光や健康等、地域づくりの多くの場面に活かすことで、財政や人口の問題を超えて、地域社会をより良いものにすることができる、野外の人間は「人と自然のインターフェイス」として、もっと幅広く社会に貢献できるはずだと考えるようになりました。

紙面の都合（いや、言語化能力の限界！）でこれ以上は言葉にできませんが、現役生の皆さんには「野外研で身に付けた資質でいかに社会に貢献するか」を考えて実践してほしいと願っています。野外研で学ぶ「人と自然をつなぐ」ためのあれこれは、体育や青少年教育だけにとどまらず、自分たちが考える以上に多様な場面や方法で社会に貢献できるのだと思うからです。私自身も新たな環境でそれを実践できるよう精進したいと思います。

いつか一緒にお仕事しましょう！

～編集後記～

この 4 月に行われた整備実習にて、野外運動研究室 5C310 の大々的な模様替えが行われました。新井(MC2)を中心に、クリエイティブな空間をテーマに実施しました。是非、つくばに来た際は研究室にも顔を出してもらえたらと思います。(吉沢)